

トルコ中銀総裁更迭で市場に不安感

ポイント① 大統領が利上げに反対

トルコでは3月20日にエルドアン大統領がアーバル中央銀行総裁を更迭したことから、週明け22日に通貨トルコ・リラとトルコの株式が急落しました。アーバル氏は2020年11月7日に中銀総裁に就任して以来、インフレ抑制のために3回の利上げを行ってきました。金融市場での信頼が戻り、トルコ・リラは米ドルに対して上昇しました。しかし、エルドアン大統領は、利上げは景気を悪化させるとして反対してきました。3月18日に政策金利である1週間物レポ金利が2%引き上げられて19%となったことが、中銀総裁更迭の引き金となった模様です。

ポイント② 金融緩和を目指す新総裁

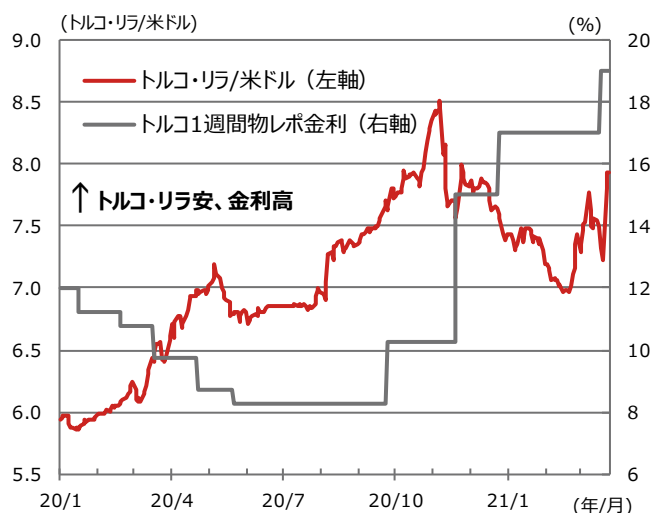
後任のカブジュオール新総裁は与党公正発展党の元議員であり、エルドアン大統領の意向を受けて金融緩和への転換を目指すとみられます。ただ、金融市場ではインフレ抑制や通貨安定の観点で不透明感が生じており、早急な利下げはトルコ・リラ安に拍車をかけかねません。トルコ中銀は4月15日に次の政策金利決定の場を控えており、どのような決定を下すのかが注目されます。

ポイント③ 米長期金利上昇の影響

トルコと他の新興国の経済状況には差があり、今回のトルコの問題が他国に直接波及しそうにはないように思われます。ただ、米国の長期金利の上昇により新興国から資金が流出しやすい環境にはあると見られます。また、新興国の中には、先進国に比べてワクチン接種が遅れている国も多いようです。経済正常化の遅れが意識されると、新興国の経済・金融市場が全般的に不安定化する可能性もあり、注意が必要でしょう。

図1：トルコ・リラとトルコの政策金利

期間：2020年1月1日～2021年3月24日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米10年債利回りと米ドル実効為替レート

期間：2020年1月1日～2021年3月24日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント

4月5日	トルコ消費者物価指数 (3月)
4月9日	トルコ今後12か月予想消費者物価 インフレ率 (4月)
4月15日	トルコ金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。